

2026年9月17日

貝印、観世宗家率いる観世流能楽団の 欧州4都市巡回公演に特別協賛

刃物メーカーと縁深い能「小鍛冶」を、貝印の特別協賛によりケルンで上演

グローバル刃物メーカーの貝印株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長兼CEO:遠藤 浩彰)は、二十六世観世宗家・観世清和氏が率いる観世流能楽団が、2026年9月21日(月)にドイツ・ベルリンで開催される「ベルリン音楽祭」のグランドフィナーレに特別招聘され、出演することに伴い、同公演を含む、ドイツ・ベルギー4都市を巡る海外巡回公演に特別協賛いたします。



「小鍛冶」シテ・観世三郎太

貝印は、刃物を中心とするものづくりを通じて日本の技術や文化を継承してきた企業として、観世流が受け継ぐ能楽の伝統と、世界へ向けた新たな挑戦に賛同し、本公演への特別協賛を決定いたしました。ベルリン音楽祭での特別招聘を契機に、公演はミュンヘン、ブリュッセル、ケルンを含む欧州4都市へと広がりました。なかでも最終公演となるケルン公演では、貝印の支援のもと、海外公演では上演機会の少ない能「小鍛冶(こかじ)」を上演します。

「小鍛冶」は、刀匠・三條小鍛冶宗近が稻荷明神の力を借り、名剣「小狐丸」を鍛え上げる物語です。道具類や舞台装置を多く必要とするため、機材輸送等の事情から海外公演では通常上演されることの少ない、貴重な演目です。

1908年の創業以来、刃物を中心としたものづくりを追求してきた貝印にとって、「鍛冶」を題材とする「小鍛冶」は、ものづくりという共通の精神を通じて深い縁を感じる演目です。今回の特別協賛を通じて、日本の伝統芸能とものづくりの精神が交差する貴重な舞台を、海外の皆様にお届けします。

「ベルリン音楽祭」への特別招聘を契機に、4都市へ巡回

観世宗家率いる観世流能楽団は、2026年9月21日(月)、ドイツ・ベルリンのベルリン・フィルハーモニー劇場大ホールで開催される「ベルリン音楽祭」のグランドフィナーレに、主催者であるベルリン芸術祭公社より特別招聘を受け、出演することが決定しました。

このベルリン公演への出演を契機に、ドイツ国内ではミュンヘン、ケルンからも招聘を受け、巡回公演を実施する運びとなりました。

さらに、2026年は日本・ベルギー友好160周年という節目の年であることから、ベルギー・ブリュッセルのボザール(Bozar)ヘンリー・ル・ブッフ・ホールで開催される「日本ベルギー友好160周年特別公演」への出演も決定。

ドイツ3都市とベルギー1都市、計4都市での巡回公演が実現します。

<巡回公演日程>

- ・9月21日(月) ベルリン「ベルリン音楽祭」
- ・9月24日(木) ミュンヘン「ムジカ・ヴィヴァ コンサート」
- ・9月26日(土) ブリュッセル「日本ベルギー友好160周年特別公演」
- ・9月28日(月) ケルン「ケルン・フィルハーモニー 能楽特別公演」

海外公演では稀少な演目「小鍛冶」をケルンで上演

「小鍛冶」は、一条天皇の命を受けた刀匠・三條小鍛冶宗近が、稲荷明神の助力を得て名剣「小狐丸」を鍛え上げる物語です。

宗近は、相鎚を打つ者がいないため剣を打つことができず、稲荷明神に助けを求めます。すると宗近の前に不思議な少年が現れ、宗近を励ますとともに相鎚を勤めることを約束。その後、稲荷明神の化身として現れた少年とともに宗近は剣を鍛え、「小狐丸」を完成させます。

前半では、少年が語る名剣の霊験や、日本武尊が草薙の剣を抜いて敵を退ける場面など、語りと動きの変化に富んだ展開が見どころ。

後半では、稲荷明神と宗近が相鎚を打ちながら剣を鍛えるクライマックスへと向かっていきます。きびきびとした動きと爽快な謡も魅力の、人気の高い演目です。

一方で、刀を鍛える場面などで多くの道具類や舞台装置を必要とすることから、海外公演では機材輸送等の観点から通常は上演されることの少ない演目です。

今回、貝印が特別協賛することで、ケルンの地での「小鍛冶」上演が実現します。刃物メーカーとして、長年にわたり刃物の技術とものづくりの精神を受け継いできた貝印にとって、刀鍛冶を題材とする「小鍛冶」は、深い縁を感じる演目です。

日本の刃物文化と能楽という異なる伝統文化が、「ものづくり」という共通の精神を通じて交わる舞台となります。



貝印と観世流が共有する「伝統と革新」の精神

貝印は、これまでも観世流の活動に協賛し、その伝統と挑戦を応援してきました。2022年には、銀座・GINZA SIXにある観世能楽堂の公式スポンサーとして協賛を開始。約700年にわたる能の伝統を継承しながら、新しい表現や取り組みに挑戦する観世流の姿勢に、貝印が大切にしてきた「伝統と革新」の考え方が重なることから、協賛に至りました。

貝印は1908年の創業以来、刃物を中心とするものづくりを通じて、日本の技術や文化を次世代へ継承してきました。今回のケルン公演への特別協賛も、こうした取り組みの一環です。約700年にわたり受け継がれてきた能の伝統と、現代においても新たな挑戦を続ける観世流の活動を支援するとともに、貝印が培ってきたものづくりの精神を通じて、日本の伝統文化の魅力を世界へ発信してまいります。

ケルン公演当日、観世宗家一行がカイ ヨーロッパ有限会社を表敬訪問

ケルン公演当日の9月28日(月)には、観世清和宗家をはじめとする観世流能楽団一行が、ドイツ・ゾーリンゲンにあるカイ ヨーロッパ有限会社を表敬訪問する予定です。当日は、観世清和宗家、観世三郎太氏ら5名が参加し、観世流の歴史や「小鍛冶」の解説、「小鍛冶」の運びなどの動作を体験するワークショップを実施予定です。日本の伝統芸能と、刃物のものづくりを通じて世界に事業を展開する貝印との交流を通じ、文化とものづくりの新たな接点を創出します。

一般財団法人観世文庫

代表者:理事長 観世 清和(二十六世観世宗家)

所在地:〒150-0001

東京都渋谷区神宮前5丁目27番2号

URL:<https://kanze.net/>

貝印株式会社

1908年、刃物の町として有名な岐阜県関市に創業。カミソリやツメキリなどの身だしなみを整えるツールやビューティーツール、包丁をはじめとする調理器具や製菓用品、医療用刃物など、生活に密着した刃物を中心に1万アイテムにもおよぶ商品を展開。商品の企画、開発から生産、販売、物流までの一連を行っているグローバル刃物メーカー。

本社:東京都千代田区岩本町3-9-5

代表取締役社長兼CEO 遠藤 浩彰

<https://www.kai-group.com>

本件に関する読者の皆様からのお問い合わせ先

貝印株式会社 お客様相談室

〒101-8586 東京都千代田区岩本町3-9-5

TEL:0120-016-410 (フリーアクセス・ひかりワイド)

<https://www.kai-group.com>